熱河討伐状況

皇軍負傷者

（錦州一日發聯合）熱河討伐に於ける皇軍の今日迄の判明せる負傷者左の如し

△北票方面早川枝隊―負傷上等兵永田初太郎、一等兵菊池與吉、同荻原源吉、同佐原德松、同小船清太

△石門子溝方面田中枝隊―負傷一等兵中倉五郎吉（重傷）上等兵大野賢次、同太田正五、一等兵山口政二、同齋藤春治

△葉柏壽方面田中枝隊―負傷一等兵佐々木善元、同木村勇

川原挺進部隊 更に追撃す

（承德四日發聯合）本日午前一時卅分承德に入城した川原挺身快速部隊は省境に向けて潰走する湯玉麟軍に對して息をもつかせず一氣に追撃を開始した

（承德四日發聯合）川原挺身快速部隊は四日午前十一時過ぎ承德城外の武烈河を渡り猛進して全軍に魁して東口より承德城に一番乘りを敢行基盛の如く熱河に入城した時に午前十一時卅分城門高く日章旗は北風に翻り我將士の萬歳の聲は承德城頭を震かんせしめた

湯玉麟脱出 北平へ逃走

（錦州四日發電通）承德にあつた湯玉麟は連日部下敗殘の報に居たゝまらず遂に承德を放棄することに決し三日夜ひそかに自動車を仕立てゝ承德を脱出北平に引返した

湯行方不明

（北平四日發電通・至急報）承德を逃げ出した湯玉麟は同地より北平街道をひそかに自動車に乘つて南下したが途中行方不明となつてしまつた張學良軍に逮捕されたものと見られてゐる

産財を沒收す

（北平四日發電通）湯玉麟は昨日東北軍のトラック數百臺に彼自身の私財及び骨董類等を積み數名の副官に監視せしめ北平に輸送したが古北口で張學良軍にトラックもろとも沒收された、尚湯玉麟の副官全部も逮捕された

偽勇軍を叱る

（北平四日發電通）熱河偽勇軍總指揮朱慶瀾は昨夜張學良に呼びつけられ偽勇軍の不甲斐なさを面罵された後今朝七時學良衛隊三十名に護衛され熱河街道を自動車で北上したが途中承德陥落の報に接し行方不明となつてしまつた

蒋公使歸國

（東電）既報の如く國民政府の訓令を受け蒋支那公使は愈々六日午後三時神戸出帆のダラー汽船プレシデント、クリーヴランド號に乘船歸國の途につく事となり五日秘書を同伴東京を出發することとなつたので同公使は四日午後二時半外務省に有田次官を訪問し告別の辭を述べ內田外相に對する挨拶を託して辭去した、形式は賜暇歸國となつてゐるが中央政府の命令による事實的引揚げである

賣國行為か 島氏邸取調

（大阪電話）大阪憲兵隊中村中尉以下本軍曹は四日午前十一時頃大阪財界の巨頭島德藏氏邸に至り取調べを行つて引揚げたがその內容は厳秘に附する所によれば島德藏氏又は同氏の弟島定次郎氏を廻つて奇怪な噂があつたことに原因するもので事件の內容は過日神戸から支那廣東に向け毒ガスの原料となる鹽を多量に積載した奇怪な汽船があつたことを探知したもので同船は既に荷揚げを行つてゐる模樣で尚引續き注文もあり右が島氏の手によつて送られたものと云はれ取調べとなつたものであるが此の外種々奇怪な點が含まれて居り輸出方面關係についても取調べを行つてゐるが事件發覺の端緒は從來餘り取引のなかつた鹽が不當の價格を以て支那側に取引されたことによるもので右について島氏は私は關係した覺えはないが兄分が多いからそのうち誰かゞ關係してゐるかも知れない

關東司令部 發表

（新京四日發電通）關東軍司令部發表―一日赤峯に入城した茂木部隊は既に集結を終り四日朝圍場に向け前進を開始した

服部部隊冷口に達す

（平泉四日發電通）服部々隊の先遣部隊は午前十時半頃長城上の冷口に達した

東海岸災害地救濟對策

復興助成方法に追加豫算の増額
應急救護から漁民の生業救助
內務大藏兩省協議

（東電）內務省では三陸地方の被害地に對し差當り應急救護措置としては各縣の罹災救助金の支出、軍隊方面よりの救援その他の應急對策により一應十分と認めてゐるが今後は至急港灣道路橋梁などの災害復舊工事、浸水後の防疫衛生生業の途を絶たれた漁民などの生業資金の貸與その他の復興助成の方法を講ずる必要あるを認め各關係局において立案の上近く三陸震災地方の救濟に關する內務省議を開き大藏省第二部豫備金支出八年度追加豫算の増額などを要求するはずである

災害對策臨時閣議

（東電）東北三陸地方に亘る強震に對しては各縣當局に於て應急的處置に萬遺漏なきを期し盡力中であるが政府としては該當局の諸般の情報並びに被害状況の判明を待つて內務大藏兩當局に於て之が救濟對策を開始し臨時閣議を開き決定をなし最善の處置を執る事になつたので內務大藏及び農林などの關係當局は急速に調査を急ぎ機宜の處置を誤らざる樣手配するところあつた

災害調査
四日午後九時現在 縣警察部發表

署名	町村名	流失	倒壊	燒失	浸水	死者	負傷者	行方不明
久慈	久慈町	二一	一	—	—	—	—	—
	野田村	五九	四	—	—	六	—	—
	種市村	五八	三	—	—	三七	二二	六四
	侍濱村	—	—	—	—	二	—	一
	中野村	二	四	—	—	二	—	四
	夏井村	—	—	—	—	一	—	—
	長內村	一	—	—	—	一	三	九
	宇部村	四	五	—	—	一	—	六
	計	一四五	一七	—	—	五〇	二五	八四
岩泉	小本村	八六	五	—	五〇	七五	七	一三八
	田畑村	一二一	三	—	—	三八	八	六五
	普代村	七二	六	—	四一	一八	一一	二〇
	計	二七九	一四	—	九一	一三一	二六	二二三
釜石	釜石町	一八九	一六三	一七二	二、〇〇〇	一三	—	五
	大槌町	二九五	一九九	—	一、二〇〇	二七	一八	二七
	唐丹村	二四〇	二五	—	四〇〇	三七〇	三二	—
	鵜住居	一三五	九〇	—	四〇〇	七	三	—
	計	八五九	四七七	一七二	四、〇〇〇	四一七	五四	三二
宮古	宮古町	三	三九	—	一三四	二	二	—
	山田町	三三〇	八二	—	一六五	一	一	七
	田老村	四〇〇	—	四〇	—	五〇〇	一三〇	六〇
	重茂村	三六	—	—	—	一二〇	—	八
	津輕石村	二	二	—	六	—	—	—
	船越村	二〇一	二一	—	—	—	—	—
	崎山村	一	—	—	—	—	—	—
	大澤村	一	九二	—	七八	—	—	—
	磯鷄村	三六	—	—	二三六	一	—	三
	織笠村	二	—	—	二〇	—	—	—
	計	九〇一	二三六	四〇	六三九	六二四	一三三	七八
盛	大船渡町	一七	二五	—	三四二	二	六	—
	高田町	二	二	—	—	二	三	一
	氣仙町	四八	六	—	—	一七	一二	八
	米崎村	一〇	三〇	—	二八	五	一八	二
	赤崎村	七五	三一	—	一四三	四六	三〇	三六
	吉濱村	一一	一六	—	五	三	—	一四
	越喜來	九四	九四	—	二八	二七	一〇	五九
	綾里村	二四〇	八	—	二四三	四四	一七	一一一
	廣田村	一一九	五	—	—	四六	八	三〇
	小友村	三四	—	—	六六	九	—	二〇
	末崎村	一二七	七	—	—	三六	二	二一
	計	七七七	二二四	—	八五五	二三八	[illegible]	三〇二
合計		二、九六六	九六八	二一二	五、五八五	一、四六〇	[illegible]	[illegible]

▽備考―さかり遠野警察署電話不通のためさかり釜石救護支部の詳細なる状況判明せぬ尚被害調査は大体四日午後六時報告の分を以て暫定的確定と見なし更に詳細に及ぶ方針である

罹災民に對し郵貯非常拂出

（仙臺電話）仙臺遞信局では今回の震災について罹災民の郵便貯金預金者に三日より非常拂出しを行ふことになつた預金者には通帳があれば全額拂ひをなし若し通帳の燒失紛失の場合でも郵便局の認定によつて拂戻しをなすもので晝夜を問はず行ふと

首相以下義捐 並低資協議

（東電）政府は四日午後二時院內首相室に於て臨時次官會議を開き柴田書記官長、黑田大藏次官以下各省次官出席三陸地方地震救濟對策に就いて租稅の減免、米穀の無償貸付け漁具買入れその他に要する低資の融通等につき種々協議し更に義捐金募集等に就いては同地の損害に鑑み總理三百圓各閣僚百圓づゝを據金し各省官吏も從來の例により俸給月額の五分以下を據金して罹災者救濟資金にあてる事に決定した

農業被害状況視察 農林省

（東電）農林省農務局耕地及びその他の農業に關する被害狀況視察のため左の通り派遣することになつた

岩手縣　山北技師　田村技手
宮城縣　柴戶技師

尚三氏は四日午後十時半上野驛發急行で出發した

民政災害救濟對策協議

（東電）東北地方災害善後策に關し民政黨の東北出身代議士は四日院內に會合し協議の結果左の如く決定しこれが實行について政府に考慮を求めることになつた

救濟委員　內ヶ崎作三郎　村松久義　柏田忠一　工藤鐵男　比佐昌平　林平馬　鈴木寅彦　手代木隆吉　大島寅吉　清水德太郎

一、災害救濟方法は關東大震災の例による
二、政府米の給與廉價拂下
三、住宅材料、農具、漁具等の給與又は廉價供給その他
四、被害地減稅の件地租所得稅營業所得稅免除並に相續稅の延期
五、復舊費の補助並に低資融通の件

衆議院交渉會 義金を醵出

（東電）衆議院各派交渉會は四日午後零時半から開會し

一、前例により議長各派幹部發起の形式に依つて義捐金を醵出すること（一人十圓宛）

その他數件を決定して散會した

震災被害地に 家畜保險支拂

（東電）農林省では今回の三陸震災被害地の內家畜保險に加入してゐる者あれば保險金額を支拂ふから請求されたき旨四日告示した

丹羽長官視察

（東電）丹羽賞勳局長官は岩手及び宮城兩縣下の震災狀況視察の爲め小林事務官を從へ四日午後十時三十分上野驛發列車で現場に赴き四五日に亘り各地視察の筈

代議士宮古へ

（宮古電話）政民兩派から災害地見舞の爲め特派された本田、大石兩代議士は平井、新田兩縣議と共に四日午後六時半下閉伊支廳を訪ひ佐川支廳長より被害狀況を聽取した一行は五日田老村を訪ふ筈

災害地救濟復興に 萬遺憾なきを期す
山本內相から議會に言明す
衆議院本會議（四日）

（東電）四日の衆議院本會議は午後一時四十三分開會冒頭三日拂曉の三陸地方に於ける大震災被害に對し

△秋田議長　昨三日東北三陸地方が震災及び海嘯のため不測の大損害を蒙つたことは同情に堪へない而し死傷者は非常に多數に上ると聽く、茲に深く哀悼の意を表する次第である尚罹災者中には滿洲事變に出動中の將兵の家庭數百に上る由である、國民は宜しくこれを慰藉し出征將士をして後顧の憂ひなからしむるやう力むべきである

と議場拍手裡に述べ次いで山本內相登壇して內務省警保局の調査に基き震害地の災害狀況、應急對策、警備狀況などを各地方別に詳細に報告し災害地救濟復興には萬遺憾なきを期したいと述べ次いで日程に入り

一、外國爲替管理法案（政府提出）第一讀會の續き
一、米穀統制法案（政府提出）
一、米穀需給調節特別會計法中改正法案（同上）

陸軍省からも 慰問旁々調査

（東電）三陸地方災害地實地視察並に慰問の目的を以て荒木陸相は陸軍省軍事調査委員長谷壽夫少將を代理として派遣した同少將は井出少佐大久保大尉の兩名を伴ひ四日午後十時三十分上野發宮城、岩手、青森縣地方に急行した

救世軍慰問團

（東電）救世軍本營にては三陸地方震害の報に直ちに東北聯隊長張田將校外數名の士官を釜石地方に派遣して慰問運動を開始したが更に各支部をして古着其の他慰問品の蒐集をなさしめ一方五日より七日迄市の重要な場所に献金箱を出して慰問救護の義捐金の喜捨を請ふ筈である

護國義勇團 岩手支部發會

護國義勇團岩手支部發會式は四日午後六時半より縣公會堂大ホールに於て盛大に開催東京本部より特派の四王天延孝中將國士舘々長柴田德次郎、同理事山田悌一氏、外田村子爵、上村高農校長、松本鄕軍分會長、三田發正、栄內校長、中村助役、下杉政務課長各在鄉分會長青訓生並に愛國義勇に燃ゆる男女中等校生約一千名出席、村井久太郎氏開會の挨拶を述べ次いで君が代二唱あり田村子爵恭しく敎育勅語を奉讀あり終つて田村子爵を支部長に推戴し田村支部長の挨拶後來賓上村高農校長、松本鄕軍分會長國崎聯隊區司令官（中込副官代讀）の祝辭あり本部及び各支部からの祝電の披露あつて一同起立兩陛下の萬歳を三唱後四王天中將柴田舘長山田理事三氏の講演で感激させ同九時半盛會裡に閉會した

救援連絡統制に 復興機關を設置
議會開會中に陳情
縣議協議會で決定

四日の縣議協議會は議會後三時から縣會議長招集の縣議協議會を開會佐々木議長以下縣議員二十餘名縣から石黑知事前田內務部長各部長出席し東海岸震災地救護狀況並に復興方針について懇談なき意見の交換を行なつたが多數意見は災地復興機關を縣に設置し事業の統制を圖ること復興資金及び生業資金の借入について縣會開會中を機として政府上下兩院に陳情を試み實現を期する等で復興資金に關しては村上議員から根本的對策を講ずるためこの際一億圓程度を政府より融資をうけてはとの意見もあり資金に就いては二千萬圓乃至三千萬圓說等もあり災害地に對しては縣會を代表し議員を特派して罹災民を慰問することゝしその他諸般に亘つての對策を協議六時散會した

縣農會救助策

續々と報導され來る三陸災害は豫想以上であるので縣農會では緊急措置として左の罹災民救助を行なつた

一、被害郡農會に對する指令　被害を受けざりし町村農會を督勵し物資の義捐を勸奨して罹災民に配分すると共に鄉土將兵に對し後顧の憂なからしむる樣救護の徹底を期せられたき事

二、其他の郡市農會に對する指令　前記の趣旨の下に町村農會を督勵して義捐物資を夫々被害郡農會宛に送附する事

三、全國道府縣農會に對する依頼　帝國農會を通じて本縣被害の慘狀を詳報し縣出身將兵に後顧の憂なからしむるべき國家的責任を喚起し義捐金品の募集を依頼せり

四、縣農會は被害郡農會職員に對する慰問救助として米穀味噌衣類等を送附せり

三八〇人の內分一人四圓平均

縣會では四日協議會を開いて協議の結果罹災地慰問のため宮古岩泉方面に下閉伊紫波盛岡郡市選出議員釜石方面に上閉伊和賀選出議員氣仙方面に氣仙東西兩磐井選出議員久慈方面には二戶九戶兩郡選出議員を夫々派遣するに決定慰問議員は五日一齊に出發し被害狀況を詳細視察して復興資料を求める事になつてゐる

縣會では罹災地被害狀況視察後再び縣當局と打合せの上佐々木議長及び委員六名（政民各三名）を擧げて上京政府に復興資金借入の陳情を行ふことになつたが委員は近く議長から指名の筈

海嘯救助費は 追加二十七萬圓
緊急縣參事會で決定

緊急縣參事會は四日午後一時十分から開會石黑知事前田內務警察兩部長等出席知事部長より詳細東海岸震災の狀況と提案追加更正豫算の內容を說明し議場一致左記原案を可決し午後二時半散會した

△七年度縣歲入歲出追加更正豫算を二百五十八萬一千六百九十四圓追加更正增額一萬三百三十二圓で震災豫備費である

△七年度縣小學校敎員恩給金歲入歲出更正豫算三十六萬七百四十五圓を三十四萬七千七百四十五圓に更正一萬三千圓の減額

△七年度縣罹災救助基金歲入歲出追加豫算十一萬百七十七圓を二十六萬九千百九十圓に追加す東海岸海嘯救助費

罹災救助基金支出條例も可決された

△東海岸地方震災罹災者に對し罹災救助基金二十六萬九千百十九圓を流用するに四日決定を見た流用費目及び施設費は左の通りである

一、避難所費	一、〇八〇圓
二、食料費（副食費及食器費等共）	八六、二五〇
三、寢具並被服費	七五、〇〇〇
四、治療費	七、三一〇
五、小屋掛費	三七、五〇〇
六、就業費	五〇、〇〇〇
七、學用品費	六、二五〇
八、運搬用器費	一、四四〇
九、人夫賃費	三、六〇〇
十、埋葬費	四、〇〇〇
計	二六九、一一九

一、避難所費（一町村金三〇圓ノ割三六ヶ町村分）　一、〇八〇圓

被害町村
氣仙郡（一二）
唐丹、吉濱、越喜來、綾里、赤崎、大船渡、廣田、小友、米崎、高田、氣仙、末崎
上閉伊郡（三）
大槌、鵜住居、釜石
下閉伊郡（一三）
普代、田野畑、小本、田老、崎山、宮古、津輕石、重茂、大澤、山田、船越、織笠、磯鷄
九戶郡（八）
種市、中野、侍濱、夏井、久慈、宇部、野田、長內

二、食料費　八六、二五〇圓（副食費及食器費等共）
被害總戶數八、六七九戶救濟を要すべき戶數七、五〇〇戶（一戶當五人平均）三七、五〇〇人內大人一八、七五〇人小人一八、七五〇人二十日間づゝ給するとせば
大人延三七五、〇〇〇人十錢
小人延三七五、〇〇〇人七錢
副食物三錢　四八、七五〇圓
同三錢　三七、五〇〇圓

三、寢具並被服費　七五、〇〇〇圓
被害總戶數八、六七九戶此の人口四三、三九五人內被服を給すべきものは二五、〇〇〇人
大人一二、五〇〇人一人當四圓
小人一二、五〇〇人一人當二圓

四、治療費　七、三一〇圓
內譯
入院費一、〇〇〇圓　患者一〇〇人分一人一日五〇錢二〇日分
醫師其の他傭料　三、七一〇圓　醫師一〇六人分（藥劑師看護婦等を含む）一人一日五圓平均各七日分
藥品費　二、六〇〇圓　一班一〇〇圓二六班分

五、小屋掛費　三七、五〇〇圓
一戶平均　五圓
被害數　三、六三五戶
內譯　流失二、四五三戶　倒壊九七一戶　燒失二一一戶

六、就業費　五〇、〇〇〇圓
一戶平均一〇圓　五、〇〇〇戶分

七、學用品　六、二五〇圓
給與を要すべき罹災兒童見込二五、〇〇〇人（小人一二、五〇〇人ノ半數分）一人平均二圓五〇

八、運搬費　一、四四〇圓
一町村四〇圓　三六ヶ町村分

九、人夫費　三、六〇〇圓
一町村一〇〇圓　三六ヶ町村分

一〇、埋葬費　四、〇〇〇圓
死亡者一、〇〇〇人（實數一、

和賀校長會議

和賀郡小學校長會議は四日午前九時半から黑澤尻小學校で開催左記件を附議決定したが午後一時から下斗米視學佐藤社會敎育主事の講演があつた

六年度決算、八年度豫算、社會敎育に關する件、改正恩給法草案の件、基本金預金通帳處分の件、義捐金募集の件

和賀中耕長 伊藤氏決定

和賀中央耕地整理組合長選擧は前組合長平野嘉平氏に對する功勞金問題を繞つて種々の紛料を釀成した結果だけに多大の注目を引いて三日午後三時半から組合事務所樓上で開催した會場には傍聽者百餘名詰め掛け緊張したが出席議員全員三十名直ちに選擧を行つたが、池田幸七（藤根）氏たつて伊藤治郞助（黑澤尻）氏を推薦する旨動議し成立滿場一致で組合長は同氏に決定した

兩曹長凱旋
昨夜歸隊す

工兵上原部隊の大場政郞特務曹長佐藤五郞曹長の兩氏は交替のため四日午後十一時十二分盛岡驛着列車にて輝く凱旋をした

畏し侍從御差遣
ゆうべ上野驛發宮城縣廳で
五日御下賜金傳達

（東電）畏き邊りでは三陸地方大震災並に之に伴ふ津波火災の甚大なる旨を聽召され深く御軫念遊ばされ現狀視察並びに罹災者御慰めの爲侍從大金益次郎氏を同地方に御差遣の御沙汰あり侍從は四日午後十時半上野驛發同地方に向ふ事になつた尚一方今明日中に天皇皇后兩陛下の御名を以て御救恤金を賜はる由である

（東電）三陸地方の激震被害に對し畏き邊りでは大金侍從御差遣遊ばされる外特に多額の御救恤金を御下賜になつたので湯淺宮相、牧野內府、鈴木侍從長以下側近者及び屬僚等職員一同は他省に率先し俸給中より義捐金を集めて送り又同時に衣類その他を取纏め罹災地に寄贈する事を四日決定の旨內務省に申出でる處あつた尚畏き邊りでは岩手宮城青森三縣社會事業團体に對しても救援事業の補助として賜金の御沙汰あらせられる御模樣である

（東電）三陸地方大震災地御慰問の大金侍從は野上屬を從へ四日午後十時半上野驛發五日午前七時仙臺驛着宮城縣廳に於て御下賜金傳達の上震災各縣當局と打合せを行ひ一週間乃至十日間の豫定で三縣下の震災狀況を視察罹災地へ御慰問の聖旨を傳達して歸京し奉復に伏奏の筈

大金侍從 七日來縣
本縣下の視察日程決定

畏き邊りの御差遣の大金侍從は七日宮城縣氣仙沼町から來縣され石黑知事の案內で氣仙郡矢作、氣仙米崎、小友、末崎、大船渡各町村八日赤崎、綾里、越喜來、吉濱、唐丹、釜石九日大槌、山田、宮古十日田老、十一日久慈、野田、中野種市の各罹災地を巡囘具さに震害の實況を視察することになつた尚丹羽社會局長官も隨行震災地を視察する

知事恐懼し 御禮言上
執奏方を乞ふ

四日午後宮內大臣より本縣知事に本月三日管下強震のため被害少からざる趣聞召され御救恤として天皇皇后兩陛下より金三萬圓を下賜せらる旨電報を以て賜金の傳達あつたので石黑知事は恐懼し宮內大臣に御禮言上の執奏方を乞ふた

拜受のため
前田內務部長上仙

東海岸震災の被害激甚の趣畏くも天聽に達し本縣に御內帑金三萬圓

發見した屍体 二百六十五箇
宮古にて 小森特派員發

三日田老村を訪ひ四日下閉伊郡支廳に歸つた小澤醫は田老の慘狀につき語る

醫者と共に陸路同地に赴いたところがキレイさつぱりとなくなつて海岸より三百米の家のあつたところが一面砂濱と化し海面には舟の破片が澤山浮かんでゐた駐在所の戶口調査簿が流失したので詳細の事は判明せぬが區長その他の話を綜合すると死者一千二百人以上に達して居る模樣で一家全滅は三十戶もあらうその中には五ッの女の子一人生き殘つて泣いて居るのもある屍体は今日迄に二百六十五個發見されたが波が去つた後砂濱から人の足が出たり手が出たりして居る一度波に浚はれた家が打揚げられてその上に段々と家が打ち上げられて押重なつて火災を起した時は其火の中に七八十人位居たやうで七八人の白骨が見られた駐在巡査はドテラのまゝで事務を取つたり救濟に奔走して居る負傷者は百五十名で寺院に收容されて居るが何れも輕傷で重傷者は波にすくはれたまゝ助からなかつたのである五日軍隊が來てバラックを建てる事になつて居る罹災者は氣が拔けた樣になつて居て人の顏を見ると泣き出し何も聽く事が出來ない子供が老母にすがりついて泣いて居るなど悲慘な姿が澤山ある食糧は今の處間に合ふ位配給されて居るが交通不便の處だから見舞に行く人は自分の食ふ丈は持參する事だ

輕鐵割引實施

（花卷電話）三陸震火災に際し釜石方面との唯一の交通機關である岩手輕便鐵道會社では罹災者に送るべき救恤品及び復舊建築材料運送の應急措置として左の如き規定で三日より當分の間取扱ふことになつた

一、品名　罹災者救恤用寄贈品を甲とす復舊建築材料を乙とす
一、發驛　社線各驛　着驛釜石遠野の兩驛
一、取扱別　甲小荷物及各扱貨物　乙各扱貨物
一、貨金　甲社線釜石線及鐵索無賃乙社線釜石線及鐵索五割減
一、荷受人　甲罹災地町村長又は遠野町乙一般
一、條件　イ乙に對しては縣又は罹災地町村長に於て罹災者復舊建築材料たることを證明したる書類を提出すること　ロ小荷物及特別小口扱貨物は集貨及配達を爲さず
一、省線連帶　省線各驛より以上と同條件にて遠野仙人峠宛連帶輸送を爲す（仙人峠驛着の上は直ちに釜石線へ直送の手配あり）
一、臨時列車運轉　三日より八日まで花卷驛發午前十一時五十分仙人峠驛着午後二時五十分臨時列車を運轉し釜石線臨時列車に接續せしむ
一、救護事務　救護事務のため社線各驛より釜石驛に通行するものに對しては縣市町村長またㇵ

沿岸被害調査
耕地整理課 總動員で

縣耕地整理課では坂部課長を主体に課員總動員で沿岸被害地の復舊計畫調査を行ふことになつた復舊を要するものは田四百町、畑八百町合計一千二百町ある四日次の通り調査隊を四班に分け出發した

△第一班　九戶郡、下閉伊郡內の普代村、露木技師三浦技手
△第二班　下閉伊郡北部（小本、田野畑、田老村の一部）佐藤與物治技手
△第三班　下閉伊郡南部、芳賀技手
△第四班　上閉伊郡及氣仙郡荒井技手、水城技手

費用は前の關東震災の例にならひ全額國庫補助を申請する調査事項は次の通り

一、被害耕地反別及その程度
二、復舊工費（耕地保護施設費共）見込額
三、代耕地開發の希望の有無及その見込地
四、事業施行に關する手續

郵便局の 緊張振り
電報の殺到

盛岡郵便局では三陸地方震災突發後直ちに事務員十三名を岩泉、田老、普代、大槌、大船渡、方面へ派遣した

日赤救護班普代へ

（久慈支局發）野田方面の被害甚しきため日赤岩手支部病院より派遣の救護班は四日早朝久慈を出發更に普代方面に進出して罹災者の救療に當る筈であるが尚久慈鄕軍分會青年團女子青年團等は救恤物資の輸送配給のため日赤救護班と同行した

更に驅逐艦派遣
毛布米等を積んで

（橫須賀電話）橫須賀鎭守府では三陸の罹災民に對し毛布三千枚米二百俵罐詰類二十貫を送る事となり四日夜驅逐艦一隻に積んで橫須賀を出發した

人事消息（四日）

△三浦縣議沼宮內より　△新田縣議一戶より　△村上（順）縣議花卷より　△菊池縣議水澤より　△佐々木（領）縣議花卷より　△元尾仙臺稅務監督局長遠野へ　△大石倫治代議士平津戶へ　△長田良治同　△本田採一郎同　△小山代議士同　△平井縣議同　△田村子爵一關より　△澤藤縣議黑澤尻へ　△磯田縣技師水澤より　△後藤同水澤へ　△佐々木（銀）同一關より

驅逐艦 投錨す
救護品を配給

宮古署長より四日午後一時縣警察部に左の如く入電

第四驅逐艦秋風四日午前五時宮古入港艦長大井少佐、海軍大佐石戶勇三乘組、本日午前十一時四十分佐藤少佐外十三名當地に到着此の旨聯隊區司令部工兵隊に通知あり

◇

三日大湊要港部から派遣せられた驅逐艦四隻のうち『吾』は四日午後二時頃風浪を冒して山田灣に上陸し兵五〇名は食糧品其他救護品を携へ救護中である尚『あかつき』は宮古へ正午碇泊直ちに兵を上陸せしめて被害狀況を調査中である

唐丹救援状況

四日午後一時半縣警察部に到着せる氣仙郡中最も悲慘を極めた唐丹村の罹災者救護狀況左の如し

イ、小白濱部落は小學校に約二百名盛岩寺に約百名其他親戚に收容したり

ロ、本鄕部落は花露部部落の親戚に收容せる者約二百名その他小白濱小學校に收容せり

ハ、華路部荒澤片岸の三部落罹災者は各部落親戚に收容せり

二、負傷者の措置
重傷者十三名は小白濱柴醫院に收容手當中なり

三、罹災者救護狀況
イ、寢具衣類なき者九八七名
ロ、食料品なき者三一〇〇名

盆田軍醫一行
田老重茂へ

（宮古支局發）三日夜遲く宮古町に到着した騎二四の盆田軍醫の救護班は同夜直ちに大半流失（家屋四百數十戶死者約六百）した田老方面に向ひ傷病者の應急手當を行つたが四日午後一時更に隣村伊半島の要村太平洋に面し殆んど海岸部落全滅した重茂村に向つて急行したが同方面は交通不便にて徒歩連絡の外仕方なくために配給品も交附されずわづかに生き殘つた住民は殆んど飢餓と寒氣のためいとゞ生色なく船を失つて海岸方面の交通も杜絕してゐるが沿岸漁村はいづれも右同樣の模樣である

貨物運賃は警察署長の證明あるものに限り當分無賃扱ひとす　釜石行商品に對しては社線及釜石線を通して三割引とす

これに入代り仙臺下り三人青森より五人　稻島より三人　秋田より五人　黑澤尻一關方面より六人合計二十二人の手傳ひを招いて事務を進めてゐるが電報取扱ひ數は實に普斷の十倍盛岡より出す物で普斷の三〇〇に對するもの一六〇〇通盛岡より配達するもの普斷の三五〇に對し一九〇〇といふ數を示してゐる

最も多忙を極めてゐるのは東京方面より來るもの青森北海道方面より奧羽六縣新潟方面より海岸地方では釜石、山田、宮古より最も多く大船渡地方は今の所全然通信不通だが目下工夫五六十名出張中なので五日頃からは開通されるものと見られてゐる

係員一同今日で二日の徹夜だが非常な緊張振りで至急官報等は時間通りに送つてゐる尚机上用紙整理のため十倍速力の自動機を五臺具へて大いに能率を上げてゐる

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。